広報九州
国民の森林・国有林
令和4年9月10日
（2022年）
No.1807
九州森林管理局
〒860-0081
熊本市西区京町本丁2－7
IP電話：050-3160-6600（代表）
http://www.rinya.maff.go.jp/kyusyu/

湯前町と事業調整会議を開催

【熊本南部森林管理署】

7月12日、湯前町役場において「令和2年7月豪雨災害における事業調整会議」を開催しました。

会議には、長谷和人湯前町長のほか、災害復旧に関係する部局から担当者10名が出席、当署からは、赤星良治署長ほか、治山・管理の各担当者に加え管轄の森林官が出席し、7月豪雨に係る災害復旧工事の進め方や進捗状況などについて協議を行いました。

会議の冒頭長谷町長から、「令和2年7月豪雨災害から2年が経過、災害復旧も未だ道半ばである。これまでの森林管理署の取組に感謝するとともに湯前町民が安心して暮らせるように引き続き復旧復興にご尽力をお願いしたい」との挨拶を受けました。

会議では、木倉浩二総括治山技術官がドローン画像などを交えて、災害復旧工事の進捗状況や今後の復旧工事の予定などについて説明、湯前町からは「町道猪鹿倉横谷線」の災害復旧に伴う工事スケジュールなどについて説明を受けた後、新たな治山対策の要望、隣接工事に伴う施工調整や国有林野貸付手続きに等について意見交換を行いました。

また、場所を移し、当署が施工している地すべり対策工事「横谷治山工事（関連災）」の現場を視察、アンカーの設置状況や今後の工事の進め方について説明、その後、「町道牧良線」の災害復旧工事箇所などの現地調査を行い進捗状況等を確認しました。

令和2年7月豪雨災害から2年が経過し、少しずつ災害復旧が進んでいますが、入札不調などで未だ着手できていない箇所もあり、引き続き、双方が情報共有しより連携を深め、地域の早期の復旧・復興に向け取り組んでいくことを確認し会議を終了しました。

会議に出された関係者の皆さん

シカくくり罠（小林式誘引捕獲法）現地検討会を対馬市にて開催

【長崎森林管理署】

８月４日、対馬市にてシカくくり罠（小林式誘引捕獲法）現地検討会を開催しました。現地検討会は、シカ被害に悩む対馬市長からの要請によるもので、九州森林管理局保全課、近畿中国森林管理局のほか、対馬ニホンジカ対策戦略会議の構成員である環境省、長崎県対馬振興局、対馬市など総勢26名が参加し、小林式誘引捕獲法について学びました。

講義を行う小林保護係長

座学では、小林式誘引捕獲法の発案者である近畿中国森林管理局の小林正典保護係長より、小林式誘引捕獲法開発の経緯・実施事例、捕獲手順のほか、国指定の天然記念物ツシマヤマネコの錯誤捕獲対策について説明がありました。

質疑では「この捕獲法は普及しそうか」という参加者からの質問に対し、「最初は皆さん、難色を示すが、実際に試し、その捕獲実績を見ると目の色が変わった」との回答がありました。

また、髙木敏署長から前任地（関東局天竜署）での取り組み「ＩＣＴで捕獲が楽になるか。」（令和３年度　林野庁業務研究発表会より）が情報提供され、ＩＣＴ導入により見回り時間の削減につながるが、通知の精度に問題があるなど、ＩＣＴの利便性が明らかになりましたが、同時に課題も報告されました。

現地実習では、有明山国有林へ場所を移動し、小林保護係長から設置のポイント及び留意事項等を踏まえながら、くくり罠設置の実演を受け、参加者が６班に分かれ実際にくくり罠を設置し、小林理論を踏まえた罠が設置されているかチェックすると同時に、シカを捕獲した後、止め刺しが行いやすく、その後シカを運びやすい場所か、ワイヤーや金具が見えないようにカモフラージュされているかなど、シカ捕獲をより行いやすくなるための改善点について個別に指導していただきました。

現地での説明

シカによる食害は現在、林業を脅かす深刻な問題となっています。この問題を解決すべく、今後も関係行政機関等で連携し、地域に普及させることにより、捕獲効率のよい対馬に適したシカ捕獲に努めて参ります。

くくり罠設置の実演

設置したくくり罠と誘引のための餌（ヘイキューブ）

五木地域森林整備推進協定WG会議を開催

【熊本南部森林管理署】

7月6日、五木地域森林整備推進協定に基づく令和4年度第1回WG会議を各協定者及び日本プロジェクト産業協議会からWeb参加も含め28名が出席し開催しました。

会議は冒頭、赤星良治署長の「ウッドショックはピークアウトしたとも言われているが、アメリカの金利引き上げやウクライナ情勢等不安定要素も多く、原木の安定価格、安定供給が望まれるところである」との挨拶で議事が始まりました。

議事についてはまず、事前のアンケートから①路網の規格・連結について②施業の集約化について③協調出荷について説明を行いました。路網関係については、五木村森林組合より具体の連結場所、連結の理由等について、また、主伐に係る協調出荷については、日本製紙木材株式会社より今年度の実施状況と今後の見通しについて説明がありました。

次に、重要取組としている間伐材の協調出荷について協議が行なわれ、熊本県球磨地域振興局から補助事業により間伐材を出材するうえでの必要な手続きや採択条件、熊本県外への出材条件などの説明を受け、補助事業を受けるための「知事の育成経営体の登録の締め切り期限はあるのか」などの具体の質問・意見交換等を行った後、今後の手続きについては、実施可能な協定者とコーディネーター、事務局で個別に整理し進めていくこととなりました。

また、現在の五木地域森林整備推進協定の期間が本年末までとなっており、5年間の延長とそれに伴う実施計画の作成を次回のWG会議までに行い、最終的に運営会議において承認されるまでの流れを説明し了承されました。

最後に、昨年度の運営会議において改定された新たな全体構想やロードマップの実現に向けて、延長する5年間の計画を立てていくことを確認し閉会しました。

WG会議に出席された関係者の皆さん

諫早農高生が職場体験（インターンシップの受入れ）

【長崎森林管理署】

8月23日と24日に長崎県立諫早農業高校の環境創造科2年生の生徒5名をインターンシップとして受け入れました。

このインターンシップは、①働くことの意義や自己の職業適性、将来設計について考えを深める、②主体的な職業選択能力や職業意識を育成することを目的として、毎年実施されています。（昨年、一昨年は新型コロナウイルスの関係で中止）

今回、受け入れた生徒には公務員志望もおり、将来は自然を相手にできる職業に就ければとの思いから、長崎森林管理署でのインターンシップを希望したとのことです。

1日目は、署内で福山拓也森林技術指導官から国有林野情勢や九州局管内及び長崎森林管理署の概要説明等を受けた後、眉山治山事

業所に移動し、吉田幸一総括治山技術官等から治山業務の重要性及び眉山観測システムの説明等を受けました。眉山の治山現場では、完成した導流堤及び現在施工中の治山現場を見学し、生徒達は、治山施設を見るのは初めてで、山を治め国民の生活を守ることを目的としていることを学び、間近で見る導流堤や床固工の重量感に驚いていました。

２日目は、誘導伐の造林地でドローンを操作し、上空から伐採箇所の確認を行いました。その後、現在事業実行中の保育間伐「活用型」へ移動し、伐倒から集材、造材まで高性能林業機械による一連の作業を見学しました。なお、列状間伐は初めて見たとのことでした。

午後から田代原風致探勝林（レク森）へ移動し、秋吉新二総括森林整備官等から、普賢岳生物群集保護林・野岳イヌツゲ希少個体群保護林等の設定目的や管理について説明を受けました。生徒達は、保護林やレク森等の森林を国有林が管理していることに感心を示していました。

最後に、生徒達から「今回のインターンシップを通して、森林・林業の今後の幅広い可能性を知り、長期的、持続可能な森林の働きの大切さを改めて理解できた」、「今後は、体験したことを活かして進路決定に繋げていきたい」とお礼の言葉がありました。

今回の職場体験は短期間ではありましたが、生徒たちはチェンソーによる伐倒作業やプロセッサによる造材作業、治山施設を興味深く見入るなど真剣に学ぶ姿勢が見られ、森林・林業への関心を深めていただけたと考えます。

眉山で導流堤の役割を学習

プロセッサによる造材作業を見学

署の玄関で生徒さん達と記念撮影

高千穂河原ビジターセンターリニューアル完成式

【鹿児島森林管理署】

８月５日に建物の改修と展示物の見直しを進めていた霧島市霧島田口の高千穂河原ビジターセンターがリニューアルオープンをしました。館内には、登山情報を伝える【高千穂ナウ】、自然や生態系を紹介する【高千穂ネイチャー】、神話や歴史を取り上げた【高千穂カルチャー】の３種類の展示があり、１８０度の大画面で四季折々の景観や火山の成り立ちを伝えるシアターやプロジェクションマッピングで坂本龍馬の新婚旅行を紹介するコーナーなどが設けられています。また、万が一の噴石に備えて、屋根などを強化・改修し緊急避難場所として使える多目的スペースも備えています。

鹿児島県藤本副知事から、「コロナ禍のなか、登山以外に霧島連山の豊かな自然や神話等の魅力あ

ビジターセンター内の様子

式場の様子

る展示、防災機能も強化されたので、ぜひ、足を運んで欲しい」と挨拶がありました。

鹿児島森林管理署の職員も式典に出席し、新しくなったビジターセンターと防災設備の見学を行いました。

【熊本南部森林管理署】

7月6日、国家公務員安全週間に併せて、当署の安全大会を開催しました。

開催にあたり、赤星良治署長から「一昨年度に発生した滑落災害の教訓を忘れず、我が職場から災害を絶対出さないとの決意の下、各種安全対策の確実な実施をお願いする」との挨拶の後、「安全標語の入選作品の表彰」続いて「蜂刺され災害」「マダニ感染症」の防止対策をテーマに、全職員による安全勉強会を実施しました。

また、交通法令講習会では、人吉警察署警部補を講師に招き、飲酒運転による死亡事故のDVDを視聴し、飲酒運転による死亡事故は、被害者の家族のみならず、自分の家族の将来や勤務先にも多大な影響を与えることを学びました。

その後、飲酒状態体験ゴーグルを装着した歩行体験をしましたが、設置されたコーンに躓きうまく歩けない職員もおり、飲酒により正常な歩行もできなくなってしまうことを体験できました。

飲酒により自分の感覚が鈍くなることや飲酒運転による交通事故が招く悲惨な結果について改めて認識することができ、公私を問わず「飲酒運転は絶対に行わない」との強い決意を全職員で確認しました。

続いて、人吉球磨消防組合の講師によるAEDを使用した救急蘇生講習では、二人一組になって、心臓マッサージとAEDによる心肺蘇生訓練を実施しました。

初めての受講者はもちろん、以前に受講していた職員についても、手順を忘れているところもあり、いざという時に適切に対応できるよう繰り返し受講することが重要であることを感じたところです。

最後に、本年度新規採用者の原田佳生技官による「ゼロ災コール」を全員で復唱し、安全大会を終了しました。

心肺蘇生の訓練を行う職員

ゴーグルを装着して飲酒状態を体験する職員

都会の中の憩いの森

監物台樹木園の多様な植物

178 ヒトツバタゴ（モクセイ科）

ナンジャモンジャノキの名前で知られている樹木で、九州では対馬に自生地があります。対馬には登山のために4～5回行っていますが、花の時期に行ったことはありません。

名前のタゴとは、トネリコの一名です。トネリコは、羽状複葉ですが、本種は単葉なので、一葉（ヒトツバ）トネリコの意味です。

熊本市ではサントリー九州熊本工場や熊本信愛女学院中学高等学校に植えられており、時期になると白い花がたくさん咲いています。

5～6月小枝の先に円錐花序の集散花序を付けます。花冠は深く4裂して細く、長さ約15ミリと、満開の白い花は、見ごたえがあって美しい。ヒトツバタゴは、雄花のみ咲かせる株があり、雌花のみ咲かせる株はありません。つまり、ヒトツバタゴの木は、雄株と、両性異花株（雄花も雌花も咲かせる株）の2種類のみが存在するという、不思議な樹木です。

森林インストラクター
安楽 行雄

みどりの散歩路

9月に入ったがまだまだ暑い日が続いている。

▼暦の上では、また旧暦では8月の初旬から秋に入るそうだが、8月7日の立秋【初めて秋の気が立つ】は、暑さの頂点という意味で、実際にその時期が一番暑い時期とのこと。気温が下がり秋を感じることができるのはもう少し先のようだ。

▼最近、コロナ禍での楽しみ方が変わった。携帯アプリのグーグルマップを開き、市街地から山のほうへスワイプさせ、渓谷や滝の名称があればポイント登録。休日はその地まで足を運び景色を堪能しながら、自前のテーブルと椅子を組み立て、移動途中の道の駅で買ったお弁当を味わい、自分の知らない場所で余暇を楽しむことにハマッている。▼初めての森林官時代の大分森林管理署で、図面を片手に管内を回っている途中、天然の炭酸水を飲んだことを思い出した。黒岳（国有林）の麓で天然の炭酸水が湧き出ており水を口に含んだ際、炭酸のシュワシュワ感に驚きと感動を覚えた。天然の炭酸水が飲める個所は日本でも数少ないとのこと。▼国有林でも優れた滝、渓谷、景色が沢山あり、新しい発見・感動を探してみるのも楽しいのではないだろうか。

▼9月期は0災月間です。職員全員で安全確保に努め0災を達成しましょう。

【小】